

メールマガジン「水土里」とは？

静岡県内の基盤整備や施設点検の状況、農業農村整備に関する研修会等に関する情報をお知らせしています。



Webページはこちら↑

企業組合松崎桑葉ファームが 耕作放棄地対策部門最優秀賞を受賞しました

賀茂



平成31年1月30日、グランシップ会議ホール「風」で「平成30年度耕作放棄地再生・活用等シンポジウム」が開催され、松崎町の「企業組合松崎桑葉ファーム」が静岡県農地利用最適化推進活動表彰事業の耕作放棄地対策部門最優秀賞を受賞しました。

本事業では、農地利用最適化の実践の模範として、波及効果が期待できる取組を実施している団体を表彰しており、「松崎桑葉ファーム」は、これまで桑の栽培で耕作放棄地1.3haを解消しています。また、6次産業化やユニバーサル園芸の推進にも積極的に取り組んでおり、地域活性化に大きく貢献している点が評価され、受賞に至りました。

表彰式では川勝知事から賞状が授与され、表彰式の終了後は、最優秀賞受賞者らによる事例発表が行われました。賀茂農林事務所では、今後も「松崎桑葉ファーム」の活動を支援してまいります。

賀茂農林事務所企画経営課 0558-24-2076

境界確定協議を行いました 【県道編】（高根西部・一色地区）

東部

平成31年1月9日、高根西部・一色地区の、県道の境界確定協議に係る現地確認が行われました。

高根西部・一色地区は、平成29年度に土地改良区を立ち上げてほ場整備事業を開始した、管内では2番目に新しい地区で、御殿場市と小山町にまたがっています。

県道を管理する沼津土木事務所と測量業者で、図面に落とした杭の位置を一つずつ現地で確認しながら写真を撮っていきましました。

現地確認の結果、1箇所筆界未定地があり、過去の経緯等を調べて対応を検討することになりました。今後は、町道や民地の境界を確定させる立会いを順次行っていきます。

東部農林事務所では、引き続き、改良区、御殿場市、小山町、県土連と連携して事業を推進していきます。

東部農林事務所用地管理課 055-920-2163



東部

換地計画原案作成に向けた集落説明会を行いました
(御殿場市中清水地区)

平成31年1月19日、御殿場市中清水地区で、換地計画原案作成に向けた集落説明会を開催しました。

ほ場整備の工事に着手する際は、換地計画原案について地権者から同意を得る必要があります。そのため、換地計画原案に記載される様々な基準は、地域の実情に合ったものである必要があります。

中清水地区では、これまで役員や委員を中心に換地設計及び土地評価の基準づくりに時間をかけて議論をしてきました。説明会では特に異議がなかったため、工事前の土地評価の現地踏査を予定通り行うことになりました。

引き続き、東部農林事務所は、地元の改良区、御殿場市、県土連と連携して事業を推進していきます。

東部農林事務所用地管理課 055-920-2163

東部

従前の土地評価作業（現地踏査）を行いました
(御殿場市中清水地区)

御殿場市内で1月24日、25日の2日間にわたって、中清水地区の換地業務に係る従前の土地評価作業を行いました。

換地計画のもとになる換地計画原案の作成には、工事前の土地の評価を含めた状況を正確に把握する必要があります。そのため、現地踏査を行い、地区で定めた基準に沿って換地計画原案の資料を作成します。

全体を4班に分け、評価のばらつきを抑えるため、各班は必ず別の班の範囲も踏査することにしました。11月に主なメンバーで試験調査を行いました。現地と公図が合わない箇所が多く、手間取ることもありましたが、概ね予定通り作業を終了しました。

東部農林事務所は、引き続き、地元の方と御殿場市、県土連等と連携し、事業を推進していきます。



東部農林事務所用地管理課 055-920-2163

富士

昭和放水路でフラッシュ作業を実施しました



1月24日、富士市沼田新田に位置する「昭和放水路」において、フラッシュ作業を実施しました。

昭和放水路は、浮島地域の洪水被害軽減のため、一級河川沼川の水を直接、駿河湾に導水するための排水路であり昭和18年に設置されたものです。

この排水路の先端部は、駿河湾に突き出した構造となっており、波浪の影響などで海岸の土砂がたまりやすいため、定期的にフラッシュ作業を実施しています。

フラッシュ作業は、排水路上流のフラッシュ水槽に貯水された4,000m³の水（25mプール8杯分）を一気に流下させ、その水の勢いで排水路内の土砂を排除させます。

富士農林事務所は、このような維持管理作業を定期的に行うことにより、台風等の大雨に備えています。

富士農林事務所農地整備課 0545-65-2359

志榛

関東農政局が島田市西原地区の茶園集積について調査を実施

平成31年1月10日、関東農政局経営・事業支援部農地政策推進課長ほか計3名が、島田市西原地区の茶園集積について調査に訪れました。島田市職員から西原地区の概要説明を受けた後、現地へ移動し、地区の担い手3名から集積に向けた活動の経過や今後の計画等について意見交換しました。

担い手からは、地権者が多く合意形成に多大な労力を要したことを説明し、「地主の意向に関係なく、農地利用の最適化に基づき利用ができないか」という意見が出ました。

また、「茶業の経営安定には基盤整備は欠かせない。未収益期間の損失補償を他者に求めるのではなく、先行投資として実施する気構え・経営努力が必要」、「機構関連農地整備事業については、地権者が集落単位でない上に、荒茶加工が伴う茶業経営の特質を踏まえてほしい」という意見も出ました。

志太榛原農林事務所は、基盤整備も含め、地域の茶業の発展に向けて支援していきます。

志太榛原農林事務所生産振興課 054-644-9214



OJT研修（ため池耐震設計編）を開催しました

中遠



「静岡県地震津波対策アクションプログラム2013」で位置づけられた農業用ため池は、2022年度まで耐震化工事を完了させる必要があります。一方で、確保できる工期が落水後（10月）から貯水前（2月）となり、対策の進捗に著しい制限が生じている実態があります。

「落水しない」耐震化工法が、「対策の加速化」に向けて重要な要因であるため、本研修では、「（株）エイト日本技術開発」、「新日鐵住金（株）」を講師に招き、落水せずに大規模地震・豪雨対策ができる工法について勉強会を開催しました。

今回の研修で提案された「二重鋼矢板工法」は、総工費が従来工法の約1.6倍ですが、大規模な土木工事を必要とせずに液状化等被害抑制に高い効果を発揮するというものでした。また、落水の必要がないため、施工時期の制限もなく、短期間での施工が可能となります。

中遠農林事務所は、こうした新工法の導入を積極的に検討していく方針です。

中遠農林事務所農村整備課 0538-37-2290

農林土木工事研修（ICT活用工事）を開催しました

中遠

静岡県では建設生産プロセスにおける生産性の向上に向けて、ICT活用工事の積極的な導入に取り組んでいます。

※ICT活用工事：「3次元起工測量」「3次元測量設計データ作成」「ICT建機による施工」「3次元出来形管理等の施工管理」「3次元データの納品」の各段階でICT施工技術を全面的に活用する工事。（国土交通省地方整備局webサイトより引用）

中遠農林事務所管内において「防災林造成事業」や「農地造成事業」等の大規模土工事が実施・計画されていることから、本研修では、交通基盤部建設技術企画課の協力のもと、職員がICT活用工事に関する基礎知識を習得するとともに、活用の可能性について検討することを目的として実施しました。

今後は、習得した技術を業務に生かせるよう更なる知識の向上を図っていきます。



中遠農林事務所農村整備課 0538-37-2290

西部

農道設計に伴う現地説明会を実施しました



浜松市北区三ヶ日町では、経営体育成樹園地再編整備事業「三ヶ日みかんの里地区」を実施しています。

現在、下尾奈の農道工の測量設計業務を進めており、当日は設計案に基づく現地説明を行いました。

地権者からは、事業の実施に向けた前向きな意見や要望等が出されました。

西部農林事務所は、地権者の要望等を踏まえ、利便性が高く、より経済的な設計となるよう事業を進めていきます。

西部農林事務所湖北事業課 053-458-7229

西部

お宮の池の耐震工事が始まりました

浜松市北区都田町にある「お宮の池」は、地震発生時の耐震性が劣ることから、平成29年度に国庫補助事業であるため池等整備事業の採択を受け、平成30年度から堤体の耐震工事に着手しています。

今回、堤体上流側基礎部の地盤改良工の準備が整ったため、『パワーブレンダー工法』による中層混合固化処理が開始されました。

西部農林事務所は、一刻も早く「お宮の池」の耐震性能を確保し、安心・安全な農業用ため池となるよう、適切な工程管理に努めていきます。



西部農林事務所湖北事業課 053-458-7229